

アドバイザー派遣事業実施レポート

鳥取県小教研音楽部会西部支部

- | | |
|--------|--|
| ◆テーマ | 思いや気持ちをこめてのびのびと歌い
豊かに表現する子どもの育成 |
| ◆開始日時 | 平成28年10月21日(金) 13:00~15:00
研修予定は17:00までだったが、鳥取県中部地震の発生により研修を途中で終了 |
| ◆実施場所 | 米子市立尚徳小学校 |
| ◆指導助言者 | 全日本歌唱教育研究会 理事 前田 美子 先生 |

【指導の実際】

(1) 各校からの課題持ち寄りによる指導者への直接指導

①提出された課題の概要

- ・「おなかをつかう」イメージを子どもがつかめない。
- ・発声練習について、広い場所でもひびく声の出し方の指導方法を知りたい。
- ・授業中、子どもたちがにこやかに歌えるにはどうするか。
- ・高音のフォルティシモを美しく出すための指導法、練習方法を知りたい。

②指導助言

総じて技術的な課題が多いが大事なことは子どもと先生が心を解放することであるという指導をうけた。参加者が体験を通して大切なことを教わることができた。

- ・空間を意識することで姿勢が変わること
- ・返事の指導において低い声で「はい！」と響かせることで、高い声でも響きが出てくること
- ・「足の裏から（マグマから、ブラジルから）息を吸う」指導を重ねること
- ・子どもに向かうために20種類くらい手法を持ち、子どもの実態で手法を使い分けること
- ・一円玉を息で返す指導など、形として見えるような指導が大事だということ

(2) 授業を通じた歌唱指導の実際

①「U&I」を使った児童の歌唱指導

実際にはここで地震が発生。大きく揺れた3階音楽室。子どもたちは避難訓練の通り、一次避難の体制をとったが、中には涙目になる子もいて、次の避難指示がでるまで待ち時間が長く感じた。このあとは子どもたちの心を落ち着かせ安心させる歌唱指導に変更。

②指導の再開

発声しながらアイスブレイキング

歌いながらじゃんけんゲームをする中で、こわばっていた児童の表情もどんどん笑顔になった。余震への警戒や次の避難指示への意識を保ちながら、児童に対しては穏やかに楽しく指導をされる前田先生の姿に学ぶものが多かった。

③児童の日記から拾った感想

- ・最初にいろんな歌を歌ってから「U&I」を歌いました。歌っている途中で地震がきました。とてもびっくりしたし恐かったです。ゆれがおさまったら、前田先生が「もしもしかめよ」の歌遊びを教えてくださいました。歌を歌いながらゲームをしたら、元気が出てきました。最後にもう一度「U&I」を歌ったら、気持ちよく歌えました。もっと教えてもらいたかったです。
- ・最初にいろんな歌を歌いました。そのあとに、「U&I」を歌いました。2番を歌っているときに、地震が起きました。すごく恐かったです。なかなかおさまらなかったです。泣いている人もいました。おさまった後、「もしもしかめよ」のゲームをしました。いろんな人しました。勝ったり負けたりしました。リズムよく歌いながらできたのでよかったです。すごくおもしろかったです。もっと教えてもらいたかったです。最後にもう一度「U&I」を歌ったら、いい歌声になったと思いました。

◆地震による変更を余儀なくされた研修であったが、短時間ではあっても有意義な内容となった。